

科目名	教育心理学		担当教員	蔵冨 恵	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1EFE106
期待される学修成果	学校と社会 自己形成				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な心理学的知識を習得し、子どもに対する理解を深め、教育・保育の現場での実践が行えるようになることが到達目標である。またあわせて、心理学的な人間観についても理解を深めることを目指す。講義のテーマとしては、人間の発達、学習、知的機能、動機づけ、学習指導法などを取り上げる。				
授業の概要	効果的な教育・保育を行うためには、教育の対象となる子どもを深く知り、教育の中で生じる心理学的な現象について理解する必要がある。本授業では、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を中心に、教育に関する心理学的な諸問題について学ぶ。				

授業計画	
第1回	教育心理学とは
第2回	発達の理論
第3回	幼児期の発達
第4回	児童期の発達
第5回	青年期の発達
第6回	行動論から見た学習
第7回	情報処理論から見た学習
第8回	知能
第9回	動機づけ (1) 達成動機づけ
第10回	動機づけ (2) 外発的動機づけと内発的動機づけ
第11回	教授方法 (1) 主体的な学び
第12回	教授方法 (2) 個に応じた学習指導 (発達障害など子どもの特徴をふまえた指導)
第13回	教授方法 (3) 協同学習
第14回	測定と評価
第15回	学級経営

事前学修	2時間	各回に対応するテキストの章を読み、疑問点をまとめてくること。
事後学修	2時間	授業内容とテキストを照らし合わせ、疑問がどのように解消されたかをまとめること。
フィードバックの方法	質問などは各授業終了後に受け付け、翌週にフィードバックを行う。また、メールでの質疑も随時受け付け、応答する機会を設ける。	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	80%	基本概念や研究成果の理解を問う問題を課す。
上記以外の試験・平常点評価	20%	毎回の課題に対する取り組みにより評価する。
補足事項		

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
主体的に学ぶ「発達と教育の心理学」	高村和代・安藤史高・小平英志（編）	ナカニシヤ出版	9784779516542	なし
参考資料	『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示、文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29 年 3 月告示、内閣府）、『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示、文部科学省）、『中学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示、文部科学省）、『高等学校学習指導要領』（平成 30 年 3 月告示、文部科学省）			

科目名	教育心理学		担当教員	安藤 史高	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1EFE106
期待される学修成果	学校と社会 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	効果的な教育・保育を行うために必要とされる基礎的な心理学的知識を習得し、子どもに対する理解を深め、教育・保育の現場での実践が行えるようになることが到達目標である。またあわせて、心理学的な人間観についても理解を深めることを目指す。講義のテーマとしては、人間の発達、学習、知的機能、動機づけ、人間関係などを取り上げる予定である。				
授業の概要	教育・保育を行うなかで必要となる人間の発達と教育・保育との関連、学習のメカニズム、人間の知的機能の概略、動機づけの過程と意欲を引き出す働きかけ、教育・保育上考慮すべき人間関係といった諸問題について取り扱うこととする。また、授業内で学習内容に関する課題を出す場合がある。				

授業計画	
第1回	教育心理学とは
第2回	発達の理論
第3回	認知機能の発達
第4回	社会性の発達
第5回	行動論から見た学習
第6回	情報処理論から見た学習
第7回	知能
第8回	動機づけ(1) 認知による動機づけ
第9回	動機づけ(2) 外発的動機づけと内発的動機づけ
第10回	教授方法(1) 発見学習と有意義受容学習
第11回	教授方法(2) 個に応じた学習指導 (発達障害など子どもの特徴をふまえた指導)
第12回	教授方法(3) 協同的学習
第13回	測定と評価
第14回	学級経営(1) 学級集団の特徴
第15回	学級経営(2) 教師の指導行動

事前学修	2時間	各回に対応するテキストの章を読み、疑問点をまとめてくること。
事後学修	2時間	授業内容とテキストを照らし合わせ、疑問がどのように解消されたかをまとめる。また、提示される課題に回答する。
フィードバックの方法	授業に関する質問・コメントを受け付け、授業内で回答する。	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
レポート	40%	最終レポートの内容で評価する。
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	60%	毎回の講義で課される課題の回答で評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
主体的に学ぶ発達と教育の心理学	高村和代・安藤史高・小平英志（編著）	ナカニシヤ出版	9784779516542	なし
参考資料	小学校学習指導要領 中学校学習指導要領 高等学校学習指導要領 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			